

# 『信仰ゆえの非常識？・1』

'20/08/09

聖書箇所:マルコの福音書 2 章 1-5 節 (新約 p.66)

ここにおられる皆さんは、きっと、世間一般の常識というものを、よくわきまえておられると思います。…しかし、今日のみことばをご覧くださいますと、明らかに、常識というものを逸脱したような行動が書き留められてあります。でも、聖書のみことばは…、「時に、信仰者と言います者は、世間一般が教える常識よりも大事なこと…、あるいは、優先すべき選択や行動があるのだ！」ということを教えてくれているのではないのでしょうか？

確かに、聖書のみことばには、『**礼儀に反することをせず…**』(イコリント 13:5)とあって…、私たちクリスチャンが、一般的な常識を守るべきことを教えてくれています。でも、常識というものは、必ずしも、いつもいつも、絶対的なものでもありませんよね？…と言いますのは、常識って、その時々時代によって移り変わっていったり…、あるいは、国や地域間で違いがあったり…、あるいはまた、その人たちの持っている背景や考えなどによっても、結構な“個人差”があったりするからです。

**命題: 真の信仰者たちに見られる特徴には、どのようなものがあるでしょう？**

そこで今日と来週とは、聖書のみことばが教えてくれている、本物の信仰者たちに見られる幾つの特徴というものについて、皆さんと一緒に確認をしていきたいと思います。そうすることによって、今一度、皆さんが自分の信仰というものを吟味することができ…、神様の前により正しく歩んでいけるようになっていってくださることを願うものであります。どうぞ、今日の聖書箇所である、マルコ 2:1-5 をご覧ください。

**I・神を信頼するがあまり、**驚く**ようなことをしてしまう！(1-5 節)**

まず、初めに確認していききたいのですが…、それは、本当の信仰者という者は、**真の神様を信頼するがあまり、時に、“驚く”ようなことをしてしまう…、あるいは、“驚く”ようなことができてしまう！**ということがあります。まずは、そのことを皆さんと一緒に見ていきたいと思いますので、今日のみことばの1-5 節までをお読みしたいと思います。

- 1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。
- 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。
- 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。
- 4 群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。
- 5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。

● **友人たちの切なる願いとは？⇒ 中風 の病がいやされること。**

先週に続いて…、今回のみことばも、イエス様がなしてくださった「癒し」に関するエピソードを紹介してくれています。ここ **1 節**をご覧くださいますと、『**数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると…**』とありますので、今回の出来事もまた、ガリラヤのカペナウムという町で起こったということが分かります。

さて、今回のみことばで紹介されています病は、『**中風**』(ちゅうふう)ですが、皆さんは、中風という病のことをご存じでしょうか？恐らく、若い方々は、『**中風**』と聞いても、あまりピンと来ないのではないでしょ

うか？⇒ここで、『**中風**』と訳されているギリシア語は、「片方がゆるむ…」というような言葉から来ていて、聖書の中では、「**体の一部分が麻痺している者**」を指す場合に使われています。一方、現代の日本語で、一般に、中風と言いますと、「**脳血管障害から来た後遺症のこと**」を指すとされています。つまり、例えば、脳卒中であるとか、脳梗塞などによって…、その後、**体の半身が不随**になったり、体に麻痺が残ったりしているような状態のことを言うわけですが、しかし、「**脳血管障害…**」と言いましても、2000 年前のこの当時は、麻痺の原因が脳の血管によるものかどうか知り得る術がなかったわけですから、恐らくは、今よりももう少し広い範囲の原因による、様々な麻痺などを含んでいたものと考えられています。

つまり、今、私が何を言いたいと言いますと…、現代の日本語で、中風と言いますと、「**脳血管障害の後遺症**」、つまり、**体の半分が麻痺しているような状態のこと**を言うのだと思いますが、聖書で言われている中風の場合は、時には、**体の半身ではなく、首から下の全部…、あるいは、体のほぼ大半が麻痺している場合も有り得た**ようなのです。実際、今日のみことばに出てくる、『**中風の人**』も、『**寝かせたまま…**』運ばれてきたとあることから、恐らくは、体の半分だけではなく…、全身が何らかの原因で、自由が利かなくなつたように思われます。

そのように、今日のみことばに出てくる、この中風をわずらっていた者もまた、並大抵の病ではなく…、かなりの重い症状を抱えていたということが分かります。しかし、幸いなことに、彼には友人たちが居て…、恐らく、その者たちとは何とかコミュニケーションを取っていたように思えますので、ひょっとしたら、ある程度は話をしたりすることができたのかも知れません。

さて、その友人たちは、イエス様に、何とか、その中風の病を癒してもらおうと、イエス様のおられたところまで、中風を患っていた友人を連れてきましたが…、そこには、あまりにもたくさんの人たちが居て…、その病人を運び込もうにも、どうにもなりません。そこで、彼らの思いついたのが、その家の屋根を壊して、その穴から、病人を吊るして、イエス様のところへ連れて行こうという…、何とも“常識外れ”の行為であったのです。

それと、実は、このことは聖書に書かれていないので、真偽のほどは分かりませんが、この時のお宅は、シモン・ペテロの家であったという風に伝えられています。確かに、私たちが少し前に学んだように、ペテロのしゅうとめが癒されたのは、ペテロの家でありました。そして、そのイエス様の一行が、また、カペナウムの町を訪れた時、ペテロが自分の家に、皆をお連れしたというのは、十分、有り得ることだと思います。実際、ここマルコ 2:1 でも、イエス様が、まず、カペナウムのある家に行かれて…、そして、その後で、そのことが知れ渡って…、大勢の者たちが、その家に集まったということが書かれてあります。そのカペナウムの町で、イエス様たちが、まず、1番最初に、ペテロの家に行かれたというのは、ごく自然なことであったかも知れません…。

今から 2000 年も前、イエス様の時代のイスラエルの家は、その多くが、平らな屋根になっていて、そのため、誰でも屋上に上ろうと思えば、屋上に上ることが可能だったようです。しかも、その屋根の材質は、細かい梁を何本も通したところに、粘土や小枝などを集めて固めてあったようなもので、今日のみことばに書かれてあるように…、はがそうと思えば、何とかはがせるようなものであったようです。

実は、今回のみことばの平行記事である**ルカ 5 章**を見てみますと、そこには、『**屋根の瓦をはがし…**』とありますが、この当時、屋根に瓦が使われていることは、ほとんど無かつたそうです。…ということは、この家の持ち主がかなり裕福な家であったのか…、あるいは、ルカが異邦人たちにも理解しやすいように、分かりやすいように、『**瓦**』という表現を使ったのかも知れません。

<sup>1</sup> 『**中風**』(παράλυωの完了受主単の分詞形、「παρα(側)」+「λύω(解く)」から、「分解する、ゆるめる、不随にする…→これが分詞になって、中風をわずらっている」)

少し前、私が、このカペナウムの遺跡に行った時の話をいたしました。実は、カペナウムの遺跡には、ほとんど建物らしい建物などは残っておらず…、その建物の柱の根っこ程度のものしか残っておりません。それはそうですね、何しろ 2000 年も前のことなので…。じゃあ、一体どうして、その中の一軒が、シモン・ペテロの家だと分かるのでしょうか？…実は、「カペナウムの町の中で、一番大きな家が、きっとペテロの家に違いない！」ということ。大した根拠があるわけでもなく…、「ここが、ペテロの家の跡地だ！」ということで、今では、その上に、何かの記念館が建てられているのです(苦笑)。

●彼らが期待していた…、その根拠にあったものとは？⇒イエス様に対する **信仰** ！

まあ、確かに、この時の家が、イエス様の弟子であった…、しかも、裕福なペテロの家であったのなら、家の屋根を壊すというような多少の非常識は許されたのかも知れません…。しかし、彼らに、そのような“暴挙”とも言い得るような行動を起こさせた…、その根拠は一体何だったのでしょうか？⇒そのことが、はっきりと、今日のみことばに記されています。どうぞ、**マルコ 2:5** をご覧ください。『イエスは“彼らの信仰”を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。』とあります。

いかがです？皆さん、気づいてくださいました？…イエス様は、彼らの“信仰”をご覧になったのです！彼らは、その信仰のゆえに、こういったような非常識な行動に走ったのです！…このことから、彼らの取った、「屋根を壊してまで、強引に家の中に押し入る」という行為が、ただの癒し(それだけでも大きなことですが…)のためだけであったのではなく…、イエス様に対する堅い信仰があったからだ！ということが分かります。しかも、ここで言われていることは、『“彼らの”信仰…』とあることから、中風に侵されていた人物だけではなく…、その友人たちも皆、イエス様に対する信仰を持っていたことが分かります。

ところで、皆さん、気づいてくださいました？⇒実は、マルコは、ここで初めて、『**信仰**』(πίστις)という言葉、この福音書の中で使っています。マルコは、ここまで1度も、「信仰」という言葉を使わずに、このマルコの福音書を書き記していたのです。…じゃあ、皆さん、「信仰」って一体何でしょう？一体、何をもち、**「私はイエス様を信じています！」**と言い得るのでしょうか？

ある方は、「ただ、イエス様を信じれば良いのだ！」とおっしゃいます。しかし、イエス様の…、一体何を信じれば良いのでしょうか？イエス様が、実際に、この世にいらっしゃったこと(=存在されたこと)、イエス様が十字架にかかられたことでしょうか？しかし、そんな程度のことは、この当時の者なら、ほとんど、すべての者がそのことを実際に見て、信仰と言うよりも…、実体験で知っています。そんなものは、信仰でも何でもありません。…そうじゃないのでしょうか？

イエス様が十字架にかかって、そして、よみがえられた後…、その十字架にかかられたイエス様の体を、実際に自分の目で見て…、そして、十字架にかかられた時の傷跡を自分自身の手で触って確認することがなければ、「私は決して信じません！」とまで言い切った人物がおりました。それが、弟子のトマスです。そのトマスに対して、イエス様は、『**あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。／信じない者にならないで、信じる者になりなさい。**』(ヨハネ 20:29; 20:27)ということを教えてくださいました。聖書がいう信仰というものは、何も、すべての事実を、実際に確認 & 検証する作業などではありません。そこには、ある程度の、「信頼」というものが必要なのです。

いつも、お話しすることですが、ギリシャ語でも…、あるいは、ヘブル語でも、「信じる」<sup>2</sup>という意味を表す原語には、「信じる」という意味だけでなく、「信頼する」という意味が含まれていて…、日本語のような、それらの言葉の使い分けがありません。つまり、真の神様を信じる者には、「その神様に対する確固たる信頼をも伴うのだ！」ということ、みことばは教えてくれています。

<sup>2</sup> ギリシャ語「信頼する、信じる」⇒πιστεύω、ヘブル語「信じる、信頼する、確かである」⇒אָמַן(アメン)

実際、今日のみことばを見てみますと、彼らには、そのような…、イエス様に対する強い「**信頼**」というものがあつたことが分かります。「イエス様なら、この病を癒してください。いや、このお方が神なら、どんな病だって癒せるはず…、どんなことだって御出来になる…。」そのような強い“**信頼**”を持っていたはずでありました。だからこそ、彼らは、他人の家の屋根を壊してまで進入するという…、決して、誉められた行為ではないようなことまで仕出かしてしまったのです。

●真の信仰に含まれるもの⇒真の神に対する理解と信頼+その神を **第1 と**すること。

そのように…、本当の信仰には、真の神様に対する正しい理解と、その神様に対する**信頼**というものがが必要です。いえ、もしも、その人が、真の神様に対する“**正しい理解**”を持ったのなら…、間違いなく、その人は、その神様に**信頼**しようとするはずで、違わないでしょうか？

このみことばが教えてくれている真の神なる御方は、この全世界をたった6日間でお造りになられた御方です。また、すべてのことを御存じで、それが100年後であろうと…、あるいは、1000年後であろうと…、すべてのことをお見通しです。だから、聖書の中には、驚くような予言が幾つも成就しているのです。すべてを造られた、真の神は、どんなことだって御出来になります。そうでしょ？もしも、私たちが…、全知全能で…、愛と恵みに富み給う、この神様を知り…、その神を信じると言いながら…、この神に**信頼**しようとしなければなら…、私たちは、果たして、自分の信仰が本物であるかどうかを、もう1度、自分自身に問い直してみる必要があるのではないのでしょうか？

このみことばは、聖書の中で1番大事と言っても良い…、とても重要なことが語られてあります。どうぞ、もう1度、**マルコ 2:5** をご覧ください。そこには、『**イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。**』と書かれてあります。皆さん、聞いてくださいました？⇒『**あなたの罪は赦されました！**』と、イエス様はおっしゃられたのです！

これこそが、聖書が1番に、私たちに教えるようにしてくれている福音…、つまり、救いのメッセージです。言い換えますと、人は、一体どのようにして、罪が赦されるのか？あるいは、救われ得ることが出来るのか？ということです。この罪が赦される方法…、その救われる方法こそが、『**信仰**』です。この時、イエス様は彼らの信仰をご覧になったのです！だから、ここ**マルコ 2:5** には、『**彼らの信仰を“見て”…**』という風に書かれてあるのです。

確かに、マルコは、この『**信仰**』という言葉、ここ**マルコ 2**章になって、初めて使っていますが、でも、救い…、罪の赦される方法について、マルコは、もう既に、この福音書の中で教えてくれています。皆さん、覚えてくださっています？⇒どうぞ、**マルコ 1:4** をご覧ください。『**バプテスマのヨハネが荒野に現れて、「罪の赦しのための”悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。**』と、はっきりと書かれてありますでしょ？

しばらく前にも学んだことですが…、ここで、みことばははっきりと、私たちの罪が赦される方法について、教えてくれています。それが、『**悔い改め**』でありました。このことについては、もう十分、その時に学んだと思いますが、とっても大事なことでありますので、もう1度、復習の意味を込めて、“おさらい”をさせていただきます。

ここ **4 節** をご覧くださいますと、**ただ単に…、『悔い改めのバプテスマ…』**と書かれてありません…。『**“罪の赦しのための”悔い改めのバプテスマ…**』と説明されてあることに注目してください。そうです！このみことばは、私たちの罪が赦されるためには、「**悔い改め**が必要である！」ということを教えてくれているのです。そうですね？もしも、私たちは、聖書は、すべて神様からの…、誤りの無いみことばである！という信仰を持っているのなら、私たちは、こういった **1 節 1 節** の教えに対しても、ある程度の説明ができなければなりません。そうでしょ？…私たちは、決して、少なくとも聖書のみことばが、信仰ではなくて…、

悔い改めが必要であると教えている事実に対して、どのように説明すべきでしょうか？

それは、例えば、こういったみことばです。ルカ 24:45-48、『45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。48 あなたがたは、これらのことの証人です。』…皆さん、聞いてくださいました？ イエス様は、あの十字架と復活の後でも、「罪の赦しに必要なものは、“悔い改め”である！」と教えてくださっています。

もちろん、イエス様だけではありません。今日は、あの使徒パウロの言葉を紹介させてください。パウロもまた、当然、同じことを教えてくれています。どうぞ、使徒 26:20 をご覧ください、『ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えて来たのです。』⇒この時のパウロは、アグリッパ王<sup>3</sup>に対して、自分の持っているキリスト信仰について、弁明と言うか…、“証し”をしているところです。だから、少し前の9節以降で、パウロは、自分がこの信仰を持つに至った経緯について話しているのです。パウロは、その途中の18節で、「キリストを信じる信仰によって、罪の赦しを与えられる…」ということを確認しています。

そうして、その後です。もう1度、使徒 26:19-20 をご覧くださいますと、『19 こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えて来たのです。』⇒もしも…、キリストを信じる信仰と、このパウロが信じ理解していた悔い改めとが違うものであるなら…、パウロは、ここで、こんな風に、信仰と悔い改めという言葉とを言い換えなかったはずですが。しかし、ここで、パウロが、信仰と悔い改めとを言い換えているということは、パウロの理解していた信仰と悔い改めとが、同じものである！という証拠なのです！

だって、皆さん。このことは、少し前に学んだことですが…、聖書が教える『悔い改め』(μετάνοια: メタノイア)とは、その人の考えを…、また、生き方を180度、正反対に変えてしまうほどのものである、ということだったじゃないですか！そうすよね？「救い」というものは、それほど、大きなものなのです！…と言うのも、信仰を持つ前の私たちは自分こそが1番で…、それこそ、己のために生きておりました…。しかし、私たちがイエス様を信じて…、それまで自分の心の中にあつた、自分こそが1番という思いが変えられ…、自分ではなく、神様のみこころこそが1番である、という風に変えられるのです。

このように…、本当の信仰には、真の神であられるイエス様に対する正しい理解、信頼が伴います。本物の信仰と、正しい悔い改めとは、まるで、同じコインの表と裏のような関係にあります…。それ故に、この神様こそが主権者であられ…、この御方こそが最善であられる…、つまり、この神を第1とする、という正しい生き方…、神様との正しい関係が回復されるのです。

聖書が、私たちに教えてくれていますのは…、残念ながら、生まれながらの私たち人間は誰一人として、神様との正しい関係の内にはおりません。でも、だからこそ、私たちには信仰が必要なのです！神が起こしてくださる変化が必要なのです！

## <励ましの言葉>

毎度毎度、言っていますように、現代、多くのキリスト教会では、このような「聖書的な悔い改め」を、あまり“強調しない”傾向にあります。…それゆえに、多くの教会では、「私はイエス様を信じます！」という告白にだけ頼って、「あの人を救われた！早くに、バプテスマを授けよう！」と言って、安易に、救いの保証をしてしまいます。しかし、その人が、神様によって変えられていないために、その人の生き方は、未信者の頃と何ら変わりがありません。それも、そのはずで…。…と言いますのは、その人は、「聖書的な知識」が備わっただけで、この聖書が教える「新生」…、つまり、新しく生まれ変わるということを経験していないのです。

だから、今日、多くの教会では、信仰を持ったはずの者たちが、みことばに従おうとしないことを見ても、彼らの信仰に異議を唱えたり…、あるいは、その人たちの信仰を、聖書的に、ちゃんと吟味すべきことを教えてあげられないのではないのでしょうか？…でも、皆さん、思い出してみてください！イエス様は、例えば、ヨハネ8章やマタイ7章や18章で、口先では、「イエス様を信じます！」と告白していても、ちゃんとみことばに従おうとしない者たちの信仰を否定されたのではなかったのでしょうか？あるいは、主の兄弟ヤコブは、「人を救う本物の信仰と…、人を救えない偽りの信仰がある！」ということを教えてくれているのではないですか？

口では、「イエス様を信じます」と告白していても…、あるいは、頭の中でだけイエス様のことを分かっただけで、本当の新生…、つまり、新しく生まれ変わらされるということを経験していない人は、信仰生活に躓いて…、ある者は信仰を棄てたり、あるいは、イエス様から離れていってしまうのです。大切なのは、「イエス様を信じます！」という告白と共に、「私は、自分の罪を…、今までの生き方を改めます！これからは、真の神様だけを信じ従っていきます！」という“悔い改め”なのではないのでしょうか？

神によって救われた者たちは、教会に来るだけではありません…。あるいはまた、教会での賛美や奉仕に熱心になっていくだけでもありません。本当に、神によって変えられた者たちは、何より、その変化が普段の生活や、その者の日常にまで表れます。また、神によって救われたクリスチャンたちは、自分も、何のために存在し…、何のために救われたのかということ意識し始めます。

だから、みことばは、こう教えるのです。例えば、エペソ 2:8-10、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』

⇒いかがでしょう。あなたは、本当に救われているのでしょうか？果たして、あなたの信仰には、言葉による信仰の告白だけではなく…、そこに、本当の悔い改めというべきものが含まれているのでしょうか？あるいは、あなたが普段意識し…、また、いつも語ろうとしている福音のメッセージは、本当に、バランスの取れた正しいものでしょうか？どうぞ、そういったことを、お一人お一人が吟味し…、神の前に正しい、救いのメッセージを語っていくことができますように…、また、私たちが、神に喜ばれる歩みをなしていくことができますように願います。

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん…。天の神様は、あなたが、1日でも早く、イエス様を信じて、救われることを願っておられます。この神様が与えてくださる救いは、罪に染まった私たちのことを完全に変わってくださいます。救われた私たちにあるのは、世間一般の人たちが理解できないようなほどの…、神様に対する愛であり…、感謝であり…、信頼や平安…、つまりは、神様が与えてくださる祝福であります。どうか、1日も早く、真の神であり、救い主であるイエス様を信じて、この救いを、ご自分のものとしていただきたいと思っております。最後に、祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。

<sup>3</sup> ヘロデ・アグリッパ…ヘロデ大王のひ孫。48年、おじの領地を継承し、王となった。